

平成 25 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	機械力学 II	担当教員	片峯英次	
学年学科	5 年 機械工学科	前期	必修	1 単位(学修)
学習・教育目標	(D-4) 100%		JABEE 基準 1 (1) : (d)	
授業の目標と期待される効果： 機械の動力学的挙動を解析するための基礎として、4 年の「機械力学 I」では 1 自由度振動系を学んだ。本授業では実用的な問題を解析するために、この問題を 2 自由度系、多自由度系、さらには連続体の振動系に拡張し、その振動現象を解析的かつ物理的に捉える能力を養う。具体的には以下の項目を目標とする。 ① 自由度系振動問題に対する自由物体図を描くことができる。 ② それに基づいて運動方程式を導出し、固有振動数と固有モードを求める。 ③ Lagrange 方程式に基づいて、運動方程式を導出する。 ④ 2 自由度振動系問題を数値解析し、その物理現象を捉える。 ⑤ 連続体の振動問題における微分方程式を導出する。 ⑥ 連続体の振動問題に対して、境界条件を用いて振動方程式を導出し、固有振動数と固有モードを求める。		成績評価の方法： 定期試験 100 点 + 課題提出 50 点 + 演習実施点 5 点の総得点に対する得点率で評価する。 ただし、演習実施点 5 点は、「授業中に実施する演習問題の解答提出」、「演習板書・説明」などから計算する。また、授業の説明に対する本質的な質問も、演習実施点として考慮する。		
		達成度評価の基準： 次の項目に対して、教科書、参考書等の演習問題と同レベルの問題を試験等で出題し、6 割以上正答のレベルまで達していること。 ① 与えられた 2 自由度系の問題に対して、力学的情報図を示す自由物体図を正確に描くことができること。 ② それに基づいて運動方程式を導出し、固有振動数と固有モードを求めることができること。 ③ Lagrange 方程式に基づいて、運動方程式が導出できること。 ④ 2 自由度振動系問題を数値解析し、その物理現象を捉えることができること。 ⑤ 連続体の振動問題における微分方程式が導出できること。 ⑥ 連続体の振動問題に対して、境界条件を用いて振動方程式を導出し、固有振動数と固有モードを求めることができること。		
授業の進め方とアドバイス： 授業では、教科書(1)に沿って説明するので予習と復習を十分に行うこと。理解を深めるために演習問題を提示するので、必ず自らの手で解くこと。				
教科書および参考書： 教科書：(1) 機械振動学通論 第 3 版 (入江敏博、小林幸徳・朝倉書店) (2) 振動工学の講義と演習 (岩井善太、他 2 名・日新出版)				
授業の概要と予定：前期		教室外学修		
第 1 回：多自由度系の振動とその例	教(1) 式(3.1)～(3.11)の導出, 教(2)p. 86, 例題 4.1			
第 2 回：自由物体図に基づく不減衰 2 自由度系振動問題の解法	教(1) 式(3.19)～(3.25)の導出, p. 89 例題			
第 3 回：Lagrange の方程式を利用した不減衰 2 自由度系振動問題の解法 1	指定された問題			
第 4 回：Lagrange の方程式を利用した不減衰 2 自由度系振動問題の解法 2	指定された問題			
第 5 回：不減衰 2 自由度系の強制振動	教(1) 式(3.30)～(3.34)の導出			
第 6 回：総合演習	教(1) p.116, 問題 3.1, 3.2, 3.4, 3.5, 3.6, 3.7			
第 7 回：2 自由度系振動問題の数値解析 (1)	課題に対する演習および数値解析			
第 8 回：2 自由度系振動問題の数値解析 (2)	課題に対する演習および数値解析			
第 9 回：弦の横振動	教(1) p.148, 問題 4.1, 4.2			
第 10 回：棒の縦振動 (1)	教(2) p.118, 例題 6.1			
第 11 回：棒の縦振動 (2)	教(2) p.126, 問題 6.1(a), p.129 問題 6.4(a), (b)			
第 12 回：棒のねじり振動	教(1)式(4.41)の導出			
第 13 回：はりの曲げ振動 (1)	教(1) 式(4.49)～(4.68)の導出			
第 14 回：はりの曲げ振動 (2)	汎用 FEM ソフトによる数値解析結果との比較			
第 15 回：総合演習	教(1) p.148, 問題 4.3, 指定された問題			
期末試験	—			
第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)	—			